（10・25日毎月２回発行　　昭和53年６月25日　第三種郵便物認可）

自治体 あいちの仲間

2011.4.10
No.1024
発行責任者　伊藤　慎次　定価　10円
組合員の購読料は組合費のなかに含まれています

発行所　自治労連愛知県本部　名古屋市北区柳原三丁目7番8号
ＵＲＬ　http://www.jaichi.jp　　TEL〈052〉916−2251
Eメール　info@jaichi.jp　　FAX〈052〉916−2308

第18回県本部囲碁・将棋大会

日　時　５月15日㈰
場　所　自治労連愛知県本部
申し込みは各組合事務所まで

4月4日、名古屋市立病院職員労組は歓迎会を行いました。会場は笑顔があふれます。

つながり 支えあう 地域自治体をつくろう

ようこそ自治労連へ

はつらつ組合デビュー

新緑とあたたかい春風とともに、職場の中に新しい仲間が、自治労連組合員としてぞくぞくとデビューしています。県内各単組とも、〝席が近い・年齢が近い〟の2つの近いの教訓をいかし、新規採用者の100％組織化めざした奮闘がつづいています。

「入職して1年、自分ひとりでは何もできないことがわかった。組合は大事です。ぜひ組合に入ってください」「組合で、たくさんの仲間をつくってたくさん学んでほしい」「働きやすい職場にするには労働組合が必要。組合に入って一緒にがんばろう」と、先輩たちから新しい仲間の心へと届けられます。

こうしたはたらきかけが広がり、6日現在、名古屋港職労や岩倉市職、中部水道企業団労組などで、100％の新入職員が組合に加入しました。また、名古屋市立病院職員労組、豊橋市職労、犬山市職労、瀬戸市職労で9割以上が加入。各単組で、未加入組合員や再任用職員、さらに臨時・パート職員にも組合加入のはたらきかけが行われています。

2年目の先輩からよびかけ

長久手町職労

長久手町職労は、4月1日の研修終了後、組合説明会を行いました。

説明会には新規採用職員22人が参加。また、組合からは執行委員をはじめ、それぞれの配属先の先輩15人が参加。入職して2年目の先輩からは「組合に入ると色んな人と知り合えます。ぜひ加入してください」と自分の言葉で、新人さんに組合加入を訴えました。その後、それぞれの配属先の新人さんに個別に声をかけ、職場のようすや仕事のこと、組合のことを話し組合加入を訴え、その場で17人が加入。全員加入にむけ奮闘しています。

先輩から新しい仲間へ加入を訴えます（長久手）

自治労連共済とあわせて加入をすすめる

豊橋市職労

豊橋市職労では、長坂委員長が、「東日本大震災では、自治体職員が先頭になって救助・復興にあたっている。全体の奉仕者として働く仲間になった事を心から歓迎します。労働組合にも入って、働きやすい職場をつくって行きましょう」とあいさつしました。

その場で加入書を書いてもらいました（豊橋）

その場で「加入書を書いて下さい」と役員が新規職員の側を回りながら記入の援助を行いました。病院支部でも同様に行い、4月6日現在、112人が加入しました。また、セット42型の新人プレゼントも行い、加入申込書を集めています。

加入の声かけをすすめています（西尾市職）

働きやすい職場めざして組織拡大

西尾市職

西尾市は、幡豆郡3町と4月1日から合併となりました。西尾市職では、転入職員への組合加入を推進しています。

組合への加入をよびかける手紙を作成。「みなさんの希望を実現し、不安を解消するために、はたらくのが組合です。組合員の声にもとづいて、職場のさまざまな問題点を解決し、組合員が働きやすい職場をつくるために日々活動しています。みなさんもぜひ西尾市職員組合に加入して、一緒に働きやすい西尾市役所をつくっていきましょう」とよびかけ、手紙を役員や職場委員から手渡し、声かけをおこなっています。組織拡大にむけ力強くとりくんでいます。

名古屋市職労

毎年恒例のフレッシャーズインタビュー。たくさんの新人さんがインタビューに答えてくれました。

春日井市職労

4月6日、昼休みに128人が参加して組合説明会を開催しました。

被災者支援と復興に全力

住民のいのちとくらしを支える自治体労働者

３月11日発生した東日本大震災は、日を追うごとにその被害の実相と規模が想像を絶するものとなっています。大津波によって、沿岸部の市街地は壊滅。さらには福島第１原発の事故による不安が広がるなか、地元自治体労働者をはじめ全国の仲間が、被災者支援と復興に奮闘しています。

宮城県多賀城市内の学校の避難所で灯油をポリタンクにわける愛労連樽松議長

この大震災で、多くの自治体の仲間とそのご家族が被害に遭われ、大変な悲しみと苦労をされています。自らが被災した状況でも、「住民のいのちとくらしを支える」自治体労働者としての責務を不眠不休で懸命に遂行しています。また、愛知からも多くの仲間が行政派遣され、消防・医療・上下水道・環境など、住民の救援や安全確保、ライフラインの復旧に尽力しています。

また、みんなが大震災に心を痛め、何かしたいと救援物資や募金など支援の輪も広がっています。

愛労連は、３・17春闘勝利・被災者支援集会などで集まった募金で、３５００リットルの灯油をタンクローリーに積んで、樽松議長と谷藤建交労委員長が、被災地・宮城県まで運びました。

現地では、灯油やガソリンが不足している状況です。今回、愛知から運んだ灯油は現地の人に「愛知から来たんですか。ありがとう」「労働組合ですか。助かった」など大変喜ばれました。自治労連でも、全国から集まった緊急支援物資を被災地に届けています。

全労連は、被災地への支援物資の共同発送と、４月４日からボランティア派遣を開始し救援活動を行っています。それにあわせ、県本部も支援物資とボランティア派遣をすすめています。詳細は各組合事務所まで問い合わせください。

被災者支援と復興はまだ始まったばかりです。長期的な支援が必要であり、今後も自治労連愛知県本部としてさまざまな支援をすすめていくこととします。組合員のみなさんのご協力をお願いします。

公務員賃金引き下げをめぐる ねらいと問題

シリーズで掲載

政府は５日、賃金や勤務時間などの労働条件を交渉で決める協約締結権を含む「国家公務員制度改革の全体像」を正式決定しました。

政府はこれに伴って、公務員の賃金削減の動きを急ピッチで強めています。

09年の総選挙のマニフェストで、民主党は「国家公務員総額人件費２割削減」を選挙公約にかかげるなどの期待は失われ、菅内閣の支持率も大幅に落ち込んでいます。こうしたなかで東日本大震災の「復興財源」とマスコミをあおりながら、公務員賃金削減を強調することで国民の支持も取り返したいという政治的意図が背景にあることを見ておく必要があります。

５日の衆院総務委員会での片山総務大臣は「国家公務員の給与削減は、民主党のマニフェストでかかげたことの一環として、検討をはじめたところ。復興財源をどうするのかという問題と切り離して、国家公務員の給与水準の見直し」と答弁しているように、公務員賃金削減で国民の支持を取り付け、国会運営を有利に導こうとするものです。

公務員賃金を党利党略の政治的駆け引きの材料として利用することは、断じて認められません。

ねらい①
公務員総額人件費削減を政治的に利用

非正規労働者「誇りと怒り」の声束ね処遇改善へ

シリーズ３

仕事上のやりがいや喜び、仕事をしていてよかったと思ったことは？

○窓口での対応に、わかりやすかったと言われた時（一般事務）○自分のしている仕事は後方の仕事ですが、自分がそれをすることで職員の方が窓口などで、丁寧に住民のかたと接することができると思っている（一般事務）○15年勤めているのは、やりがいがあるからだと思う（看護助手）○今まで何も知らなかったこと、少し専門分野であったりして自分自身の向上につながっている。知識も豊富になる（一般事務）○住民の方から感謝されたときによろこびややりがいを感じる（その他）○各団体への出前講座の中で、通訳の必要性を感じてもらえるとき○住民のかたが笑顔で帰られるとき（一般事務）

正規も非正規も元気に働きつづけられる職場に

豊橋市職労

３月22日～24日の昼休みに、本庁で働く嘱託職員を対象に、しゃべり場を開催しました。

しゃべり場の開催は重要

参加者からは、「通勤手当は非課税なのに賃金の一部はおかしい」「協会けんぽの掛金が上がっているのに報酬減はつらい」「嘱託に業務の比重が重くのしかかっている」「５年ごとの試験はおかしい」などさまざまな意見が出されました。

市職労から、要求前進のためには、嘱託職員も組合員となり、切実な要求を直接訴えることが重要。正規も非正規も元気に働きつづけられる職場へ、一緒にがんばろうと訴えました。

ニュース笑アラカルト

芸岡☆友衛行

職場の仲間に安くて安心の
自治労連共済を
すすめよう

一斉地方選挙
願いを届けよう！
後半戦 4月24日

福祉・いのち守る政治に
投票に行こう！